／Ｂ１１日本印刷新聞／５８２１／８面／紙面レイアウト Page 8 出力日時 2020年 1月 6日16時17分49秒 (1)

バリアブル加工機披露

ミヤコシ　デジタル化に対応　後処理を強力サポート

㈱ミヤコシ（本社・千葉県習志野市、宮腰亨社長）は2019年12月10・11日の両日、秋田・横手の㈱宮腰デジタルシステムズで「バリアブル加工機 内覧会」を開催した。全国各地から約100人の来場者が訪れたこの会では、デジタル印刷／デジタル加工への市場需要の高まりを受けて同社が新たに開発・上市したバリアブル加工機を披露した。

今回披露したバリアブル加工機「VPR20A」は、給紙部からランダムファイルパンチ、ランダム縦ミシン、ランダム横ミシン、折り部、巻き取り部という構成のモデルで、1to1のフルバリアブル印刷をするデジタル印刷機の後処理を強力にサポートする新世代加工機。印刷物の断裁代の部分に1部ごとに印字したデータマトリックスコード（2次元バーコード）をセンサーで読み取り、そのコードに収録された加工パターンの情報に応じて各加工ユニットが個別制御によって1部ごとにセット替えをした上で連続処理をする。したがって、次々と流れてくるページごとに、まったく異なるパンチやミシン、折り加工などを施すことができ、さまざまな形態の製品を連続自動処理することができる。また、ジョブ替えのためにシリンダーが入った大きなカセットを各サイズごとに用意し、その重たいカセットを入れ替えるという手間も省け、さらにはミシン位置の設定も自動なのでその手間と時間も大幅に省くことができる。

最大用紙幅は520㎜で、最高処理スピードは現段階では毎分50㍍ながら、将来的にはデジタル印刷機の生産性にあわせて毎分100㍍にすることを予定。フォーム印刷機の製造から同社が培ってきた用紙搬送・加工技術がそのまま活かされており、たしかな品質が実現されているほか、今回披露した機械構成以外であっても加工ユニットを自由に組み合わせることができ、たとえばシーターやカウントスタッカー、平行ターンバー、糊付け、ブックブロック製作をはじめとした多種多様な加工機の組み込みも可能。また、ページごとにリピート長が変化しても対応し、長尺ジョブに活用することもできる。

想定用途としては大判のダイレクトメール、納付書、チケット、クーポン、金券、商品券、袋とじなど。最大仕上がりサイズはA4判12ページの製品にも対応するので、大判のダイレクトメールとして大きな写真やイラストの挿入、大量な情報の収録ができることから、訴求力・レスポンス率・費用対効果・付加価値の高いダイレクトメールの製作ができる。

さらに同社では、すべての加工機をモジュール化し、OEM供給および直販を行っていく方針も明らかにした。

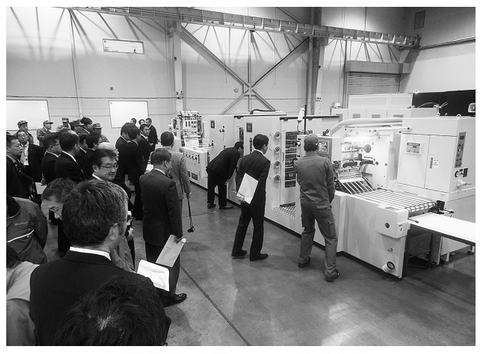
◇　◇

この内覧会ではそのほかに、フルカラーインクジェットプリンター「MJP20AXW」、ラベル用UVインクジェットプリンター「MJP13LXV」、枚葉角底製袋機「SB35」も披露した。

「MJP20AXW」は、1200dpi×1200dpiの解像度で毎分200㍍の高速印刷ができる水性顔料フルカラーインクジェット印刷機。標準的なオフセット印刷用紙にもダイレクトに印刷が可能で、高価なインクジェット印刷用紙を用意する必要やプライマーによる前処理をする必要がない。また、ノズル詰まりを補正する機能、自動的に見当を調整する機能などの新機能も搭載している。

「MJP13LXV」はラベル用のフルカラーUVインクジェットプリンター。解像度1200dpiのインクジェットヘッドを搭載し、CMYK＋白＋白の6色印刷を毎分50㍍の高速で印刷できる。箔押しやラミネート、ダイカットなど、ラベル生産に必要なインライン加工オプションも用意されているほか、UVインクの臭いを低減する窒素パージシステムを採用している。

さらに、枚葉角底製袋機「SB35」での紙袋製作のデモンストレーションも行われた。


バリアブル加工機「VPR20A」

フルカラーインクジェットプリンター「MJP20AXW」

枚葉角底製袋機「SB35」

1月22日に文字文化フォーラム　モリサワ

㈱モリサワ（森澤彰彦社長）は2020年1月22日午後3時から、東京2020公認プログラムとして第28回モリサワ文字文化フォーラムを大阪市浪速区の本社4階大会議室で開催する。

今回は「東京2020オリンピックスポーツピクトグラム」のデザイナーとしても著名なグラフィックデザイナー・廣村正彰講師が「デザインからデザインまで～ピクトグラム その機能の役割」をテーマに講演する。

ピクトグラムは、文字同様にユニバーサルなコミュニケーションツールとして情報を伝える大切な役割を持つ。東京1964オリンピック競技大会で生まれたスポーツピクトグラムは、「情報伝達」という点を重視して作られ、その後、世界各国で発展してきた。

今回の講演ではピクトグラムの起源から、オリンピック歴代大会の象徴的なデザイン、東京2020スポーツピクトグラムの開発に至るまで、現代の環境下でのピクトグラムのデザインや表現について紹介する。

定員150人。参加費無料。申込みは専用サイトから。

デジタル対応のシルバーインキ　日本HP

㈱日本HP（本社・東京都江東区、岡隆史社長）は、「HP Indigo7900デジタル印刷機」に対応する特色インキ「HP Indigoエレクトロインキシルバー」の販売を開始する。

「HP Indigoエレクトロインキシルバー」により、ワンパス印刷によるシルバーカラー印刷ができるようになり、メタリックカラーを使用した高付加価値デザインが可能になる。これによりビジネス機会の拡大がはかれるとともに、これまでの金属系素材からの置き換えが可能になり、メディアコストの削減にもつながるとしている。

圧着はがき／DM制作サービスでこの「HP Indigoエレクトロインキシルバー」を採用した㈱マージネット（本社・和歌山県西牟婁郡）の池田朗社長は「ダイレクトメールにおいて高い訴求効果を発揮する圧着ハガキの製造を手掛ける当社では、より訴求効果の高いシルバーインキを使用することで他社製品と差別化を図るとともに顧客の期待値を超える商品開発を進めていく。また、通常のカラー印刷に加えて違いが一目でわかるシルバーインキは、ダイレクトメールのみならず名刺や装丁、パンフレットなど、さまざまなアイテムへ気軽に効果的なアクセントを追加できると期待している」と述べている。

FFGS　東洋印刷の成長戦略

角社長招いてセミナー

富士フイルムグローバルグラフィックシステムズ㈱（辻重紀社長、以下FFGS）は2019年11月21日午後2時30分から、東京・港区の東京ミッドタウンで、「経営セミナー2019」を開催し、160人の参加者を集めた。今回は、新規事業開発に次々に取り組み、印刷のみだった事業構造を転換している北海道帯広市に本社を置く東洋印刷㈱（角高紀社長）の角社長を招き、「違いを作って業容拡大を図る東洋印刷の成長戦略～印刷業から、顧客支援業への業態転換を目指して～」をテーマに講演を聞いた。

160人が参加した

角社長

セミナーでは最初に、FFGSの藤嶋克則常務執行役員があいさつに立ち「富士フイルムのグループは今年、創業85周年を迎えた。そして『NEVER STOP 挑戦だけが未来をつくる。』をキャッチフレーズに掲げ、富士フイルムの取り組みやこれからの挑戦を全世界に発信していこうと活動を行っている。そのような中、この経営セミナーというのは、『NEVER STOP』の精神に則った大事な情報発信の場として毎年、全国各地で開催させていただいている。今回のセミナーは、大変厳しい経営環境にある印刷業界の中で、業態変革を実行され、効率化を図り、そこから新たな事業を取り組むことによって、業容を拡大し、着実に利益を上げられ、さらに新たなチャレンジを繰り返されている東洋印刷の角社長を講師にお招きし開催する」と述べた。

セミナーでは、講師の角社長が、古い体質の企業から、新しいことに取り組める風土へと同社を変革していった経緯を述べ、紙媒体主流であったのを、紙媒体にとらわれない商品開発、さらには自社媒体開発から自社メディア事業を発展させるなどの同社の取り組みを説明した。

また、基幹システム（MIS）の更新による印刷業務の改革と見える化によるジョブごとの利益管理や、XMF Remoteを活用したオンライン校正システム「TOS（Toyo Online System）」による作業効率の向上などでの働き方改革にも繋げる事例を語った。

最後に、既存事業、人材ビジネス、長期的な視点で新たな事業を加えて、三つの柱づくりを目指すと説明した。

続いて、経営戦略実践編では角社長、同社井上雅之専務取締役も参加し、「東洋印刷の強さを探る」と題したインタビュー形式のセミナーが行われた。

ダックコジャパン　SONORA新製品

吹田市で発表会を開く

藤原社長

コダックジャパン（本社・東京都品川区、藤原浩社長）は12月5日、大阪府吹田市の新大阪江坂東急REIホテルにおいて「KODAK プリントビジネスフォーラム」をテーマに、機能性を高めた完全無処理版CTPプレートSONORAの新製品「SONORA CX2」の発表会を開催し予定を大幅に上回る約100人が参加した。

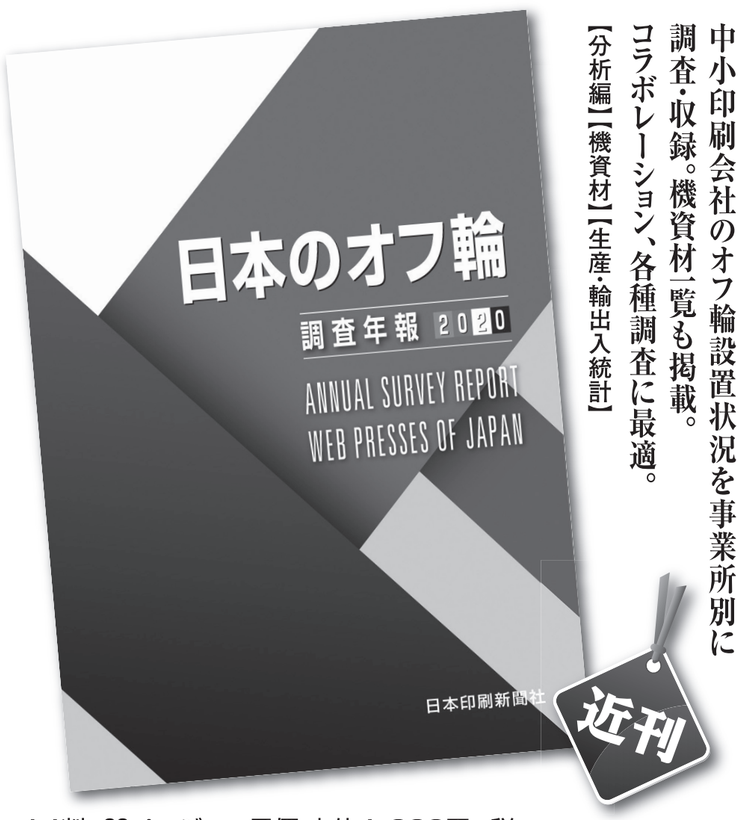
開催に先立ちあいさつした藤原社長は、「今回、披露するSONORA CX2は、UV印刷での耐刷性、そして視認性と耐傷性の向上を実現している」と、新製品の特徴について説明した上で、機能性の向上により、パッケージ印刷分野にも積極的に提案していく考えを明らかにした。

「SONORA CX2」は、現行品のSONORA CXと比較して、UV印刷での耐刷性が50%向上、さらに視認性については、20%の向上を図ったほか、その持続時間の向上も実現。そして耐傷性についても20%の向上を実現しているので、有処理版のように安心して作業を行うことができる」と述べた。

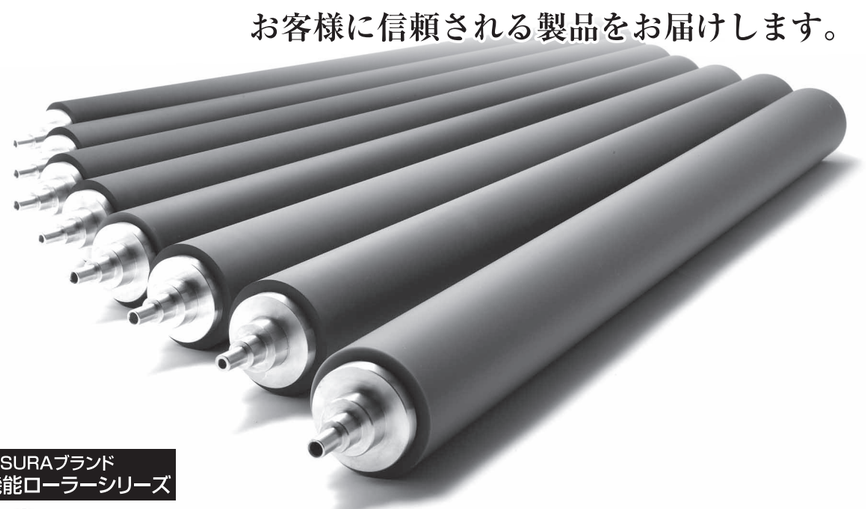
新製品のプレゼンテーションでは、同社の畑信雄プレート販売推進部長が「SONORA CX2」の製品性能改良のポイントとしてUV印刷耐刷性、視認性の向上、耐傷性の向上などについて説明。続いて飯田厚システム販売推進部部長がCTP新製品情報、ワークフロー新製品情報について説明した。

終了後には、同社関西事業所ショールームに移動しTRENDSETTERによるSONORA CX2の出力実演を行い。参加者は視認性の向上など、現行品との違いを確認していた。

「SONORA CX2」の出力デモ

オフ輪稼働状況の"今"がわかる
日本のオフ輪 調査年報 2020
中小印刷会社のオフ輪設置状況を事業所別に調査・収録。機資材一覧も掲載。コラボレーション、各種調査に最適。
【分析編】【機資材】【生産・輸出入統計】


●A4判・80ページ　●予価 本体4、000円+税
日本印刷新聞社　〒104-0041 東京都中央区新富1-16-8　TEL03・3553・5681　FAX03・3553・5684

KATSURA　新しい技術、新しい製品を追求し続け、お客様に信頼される製品をお届けします。

KATSURAブランド 高機能ローラーシリーズ
i Roller®
高性能UV印刷用インキローラー　アバントUV　インキ転移性とゴム劣化性を大幅に改善。長期間安定した印刷品質が得られます。
UV連続給水用ゴムローラー　UVHW　安定した親水性でインキがらみの発生を大幅に抑制します。
株式会社 加貫（かつら）ローラ製作所
本社 〒544-0005 大阪市生野区中川5-3-13　TEL.06-6751-1121　FAX.06-6754-4400　http://www.katsura-roller.co.jp
工場 茨城／千葉／滋賀／大阪／九州
営業所 仙台／千葉／東京／神奈川／静岡／富山／名古屋／滋賀／大阪／岡山／高松／九州

㈱きかんし 制作部 SUPER DIGITORIAL/EX V12.0